

ふくさき町づくり・ 青少年健全育成講演会開催

福崎町を活性化させるために、
子どもたちの未来のために、私
たちができることは何か、とも
に考えましょう。



日時 8月24日(土) 13:30～

場所 エルデホール メインホール

講師 元警視庁警察官

子育てアドバイザー 幸島美智子さん

演題 子どもたちの未来 共に考えてみませんか

～親と子どもたちの絆をよりいっそう深めるために～

詳しくは、総務課(内線221)・社会教育課(内
線257)へ。

全国一斉「高齢者・障害者 の人権あんしん相談」

日時 9月9日(月)～15日(日)

月～金 8:30～19:00

土・日 10:00～17:00



電話番号

☎0570-003-110(全国共通・ナビダイヤル)

相談内容 電話による人権相談

相談担当者 人権擁護委員・法務局職員

問い合わせ先

神戸地方法務局 人権擁護課 企画係

☎078-392-1821(内線345)

相談は無料で、秘密は厳守します。

クリーン作戦のお知らせ

今年も七種の滝、辻川山、日光寺山、春日山周
辺のごみ一掃をめざして、クリーン作戦を実施し
ます。みなさんのご協力をお願いします。

実施日 9月7日(土) 小雨決行

時間 午前6:50集合 午前7:00開始

集合場所 ○福崎地区の方

青少年野外活動センター(田口)

○田原・八千種地区の方

柳田國男生家・記念館(辻川)

携行品 手袋・タオル・帽子・鎌・火ばしなど

(ごみ袋は当協会でご用意します。)

(福崎町観光協会)

気象庁からのお知らせ

『特別警報』

8月から発表を開始

気象庁はこれまで、大雨、津波、高潮などによ
り重大な災害の起こるおそれがある時に、警報を
発表して警戒を呼びかけていました。これに加え、
今後は、これらの警報の発表基準をはるかにこえ
る豪雨や大きな津波等が予想される時に、重大な
災害の危険性が高まっていることをお知らせし、
特別な警戒を呼びかけるために、新たに『特別警報』
を発表します。

『特別警報』が発表された場合、その地域は、数
十年に一度しかないような非常に危険な状況にな
ります。屋外の状況や、避難指示・勧告等に留意し、
ただちに命を守るための行動をとってください。

『特別警報』の対象とする現象

- ・「東日本大震災」の大津波
- ・「伊勢湾台風」の高潮
- ・「平成23年台風第12号」の豪雨 など

詳細は、気象庁ホームページでご確認ください。

<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/tokubetsu-keiho/index.html>

問い合わせ先 気象庁 神戸海洋気象台 業務課

☎078-222-8907

●文化センター行事予定(8/20～9/19)

神崎学園

日時：8月22日(木) 10:00～12:00 専門講座

9月12日(木) 13:20～15:20 専門講座

福寿学園

日時：9月12日(木) 10:00～12:00 専門講座

9月19日(木) 10:00～12:00 専門講座

老人大学一般教養講座(公開講座)

日時：8月22日(木) 13:20～15:00

場所：文化センター

演題：「わたしの、あなたの人権」

講師：社会教育指導員 出口雅信

サルビアセミナー(公開講座)

日時：9月6日(金) 13:30～15:00

場所：エルデホール

演題：「難病をのりこえて ～光のステージへ～」

講師：フルート&ベース エスペランサ

*上記公開講座は、一般の方も参加できます。
どうぞ、お越しください。

地域に学ぶ 出会い・感動・発見 2013トライやる・ウィーク



感謝・感謝・感謝

福崎西中学校長 高橋 渉

今16年目の「トライやる・ウィーク」を、町内194名の2年生が、70の事業所にお世話になりました。

生徒たちが体験学習ができたのは、現在の厳しい社会情勢の中で、事業所の方々の受け入れていただいた熱い「思い」や推進委員の方々の活動等に対してのご支援やご理解があったからこそです。学校は「敬意」と「感謝」の思いで一杯です。そのことは、生徒たちが一番感じ取ってくれていると思います。

阪神・淡路大震災及び神戸市須磨区の事件以来、体験を通して、心の教育に努め、自分の生き方を見つけるよう支援する目的で始めましたが、当時の不安をよそに、当然のように実施されています。しかし、生徒にとって一生に一度のこの体験を毎年、危機感を持って、熱い思いに立ち返り、永遠に未完成の「トライやる」に取り組まなければならないと認識しています。

生徒は、将来に対する不安や、否応なく迫られる進路決定への複雑な思いの中で、目的や目標を見いだせずにいる生徒も少なくありません。そのような中、この活動は、結論を教え込むのではなく、活動を通して、人間関係を築き、自分なりの生き方を見つける「心」を支援するためには大変有意義であります。

この体験で、あいさつや礼儀の大切さだけでなく、将来の自分の職業を決めた生徒もいます。すべての生徒が、その後の生活に活かしたり、影響を受けています。

期間中、194名に194のドラマがあったと思います。今後の自分の宝物にしてください。

生徒にとっては、分からないことばかりだったでしょう。でも、「分からない中で、何とかする。」それが「生きる」ということだと思うのです。社会に出ると、大きな壁にぶつかります。乗り越えられない壁の方が多いと思います。乗り越えられなくてもいいんです。大事なことは、あきらめず、ウロウロと、活動し続けることだと思います。今度、誰かが壁の周りでぶつかっていたら、応援してあげてください。

家庭では、保護者と生徒が共有できる話題になり、将来の職業などについて会話が発展したと思います。多くの人たちによって支えられた活動であるからこそ意義があると実感しています。

大人にとって5日間というのは、ほんの短い期間に思えますが、生徒にとっては十分に学ぶことのできた期間といえます。年齢を重ねるほど月日はあっという間に過ぎゆく感があるように、月日の長さはその人の生きてきた長さに反比例して感じるものだといわれています。大人の3分の1か、4分の1ほどの年齢の生徒にとっては、5日間は大人の3倍にも4倍にも長く感じたはずですが、それだけに大人が思う以上に、多くのことに感動し、考え、発見することができた中身の濃い日々であったことでしょう。

最後になりましたが、本年度は希望のなかった受け入れ事業所の方々には、大変申し訳ありませんでした。心よりお詫びいたしますとともに、来年度以降も受け入れていただきますようお願いいたします。

生徒の感想

- 今回のトライやる・ウィークで仕事をすることは大変なんだということを改めて学びました。これからもこの1週間で経験したことを生かしていきたいです。(福崎西中)
- 同じことを毎日して、しんどいことを何度も繰り返してやるのは大変だったけど、それを我慢してやりぬくことこそ本当の社会人であり、大人なんだと思いました。(福崎西中)



- もう二度とできないかもしれない貴重な体験でした。なにより、父母の仕事のある喜び、つらさを知ることができて良かったです。ほんの1週間だけでしたが、本当に楽しかったです。(福崎西中)
- はじめはあまりしゃべってくれなかった園児たちが、日を重ねるごとに会話が増え、今ではすごく仲良くなることができました。普段、普通に過ごしているだけでは全然わからない大切なものをたくさん学びました。(福崎西中)



- トライやるは自分の思っていた以上に疲れました。幼稚園では遊ぶことぐらいしかなくてびっくりしたけど、すごく楽しかったです。草抜きなど、しんどいこともしたけど、これが仕事なんだなあと、お父さん、お母さんの苦労がすごく分かりました。将来の夢についてすごく参考になり、良かったです。(福崎西中)



- 仕事の厳しさや商品の1つ1つの大切さを学びました。部品の組み立てが多く、自分たちが組み立てた商品を不良品にすると迷惑をかけてしまうので、慎重にしました。(福崎西中)
- トライやるをやってみて、仕事って大変だなと思ったけど、同時に、完了した時の達成感が味わえました。仲間と協力することの大切さとか、何をするにしても「やるぞ!」という気持ちがあるということが学べて良かったです。(福崎西中)



- このトライやる・ウィークで学んだことは、子どもとの接し方や、保育士という仕事の大変さと楽しさです。それぞれの組によって年齢が違っているので、話し方や遊び方も違ってきます。そうやって子ども一人ひとりに合った接し方を学びました。本当にトライやるで体験することができて良かったです。将来、仕事についた時に役立てたいと思います。(福崎西中)
- 指導ボランティアの方はとてもおもしろくて、でも何事にも真剣で、そんな姿を見て私たちはとても勉強になりました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。自分が仕事についた時、トライやる・ウィークの体験を生かせるようにがんばります。(福崎東中)



- トライやる・ウィークが終わっているんなことがわかりました。実際体験した中で学んだ「働く」ということはどういうことなのかや、お金をかせいで生活するということは大変だなと思いました。事業所のみなさん、本当にありがとうございました。(福崎東中)
- 仕事をすることはすごく大変なことで、しかし、そのがんばった後は、ちゃんと結果がついてくることがわかりました。普段では絶対に体験できないことをたくさん学ぶことができてすごくよかったです。(福崎東中)
- 5日間のトライやるを通じて、仕事の厳しさ、大変さなどを学びました。ほかに、あいさつと笑顔は大切だなと思いました。この体験をもとにして、毎日の生活、学校などで生かしていきたいと思います。(福崎東中)

- 私は、このトライやる・ウィークを経て、変わったように思います。特にあいさつや返事をきはきとできるようになったと思います。どれだけ自分が貴重な体験をしたのかよくわかりました。(福崎東中)
- 1日目は何をしたらいいのかわからず、一日中ずっと緊張し、終わった頃にはへとへとになっていました。しかし5日目にはテキパキと自分で今できること見つけて、そのことをこなせることができたので、成長したなと思うことができました。働くことの大変さを知ることができ、お父さんやお母さんへの感謝の心が強くなりました。(福崎東中)



- 学校では学べないようなことが学べました。事業所にはたくさんの方が大変な作業をしているんだなと思いました。働くということは楽しいけど大変で、お金を使うことは簡単だけど、お金をかせぐのは大変なんだということがわかりました。私はまたこのような機会があったらいいなと思いました。本当にいい経験になりました。(福崎東中)
- トライやるをする前までは、仕事は大変で、楽しいとは思いませんでした。でも仕事をしていくと、すごく疲れるけど、それと同時に楽しく感じて1週間では足りないくらいでした。(福崎東中)

- わからないことがたくさんあって大変でしたが、感謝することの大切さや、笑顔の大切さを知ることができました。また、自分で考えて行動しなければならない時は、何をするか迷いながらも仕事を見つけて取り組みました。大きな声であいさつをしたり、しっかり返事をしたり、この1週間でたくさんのことを得ました。(福崎東中)
- 「働く」ということはとても大切だと思いました。誰かのために、何かのために働くということは辛く、しんどいこともあります。けど、楽しかったり、達成感を感じたりできます。そしてそれは誰かや何かのためじゃなく、すべて自分のためにもなると思いました。(福崎東中)

【保護者の感想】

- 「トライやる・ウィーク」を体験し、働くことの大変さ、楽しさなどを少しは感じる事ができたのではないかと思います。また、受け入れをしてくださった事業所の方には、通常の仕事をしながらということで、お忙しいなか、いろいろな体験をさせていただいたり指導していただいたりと大変お世話になりました。ありがとうございました。（福崎西中）
- ちゃんと仕事がつとまるだろうか、不安でいっぱいでしたが、毎日、いきいきと仕事内容、お客様とのやり取りを話すようすを見て、充実した楽しい体験をさせていただいたと大変うれしく思います。また、仕事にも意欲的な態度を見せるなど、日常では見ることでできない子どもの一面を見られた有意義な5日間でした。（福崎西中）
- 5日間の活動で仕事の大切さやあいさつの大切さなどを学び、普段の生活の中では体験できないことができてよかったと思います。初日から失敗もありましたが、最後まででいねいに指導していただき、事業所の方には大変お世話になり、ありがとうございました。（福崎西中）
- 中学校から離れて5日間、楽しいこと、大変だったこと、いろいろありましたが「今日は〇〇やった。」とか目を輝かせて子どもとたくさん話ができて、考えさせられるものがありました。いつまでも子どもと思っていましたが、責任を持って1つのことをやりとげること目標に、前向きに一生懸命がんばっている姿を見て、とても嬉しく思いました。社会に出て貴重な経験

をさせていただいた事業所様に感謝しています。ありがとうございました。（福崎西中）

- 親でも先生でもない大人といっしょに働き、注意される体験はそうそうできるものではなく、いい経験になりました。間近で働く人を見て、表だけでなく裏方で働くことの大切さもわかったようです。トライやる・ウィークは、中学生にとって大人の一步を踏み出すよい勉強の場となったと思います。わが子もこれを機会に成長してほしいと願います。（福崎東中）
- このような機会を与えてくださり、大変ありがたく思っています。接客業を担当させていただき、コミュニケーションが少し苦手な子どもですが、仕事と思い意識を持てば思っていたよりすんなりと対応ができたと言喜んで帰ってきました。何事も自分で経験し、気づき、考え、少しずつ成長できればと思っています。（福崎東中）
- 事業所の方には大変お世話になりました。事業所の担当の方も中学生の時、トライやるを経験されたそうです。その時のお返しのつもりで、子どもたちに大変よくしていただいたようです。このような良い循環が継続できていることは大変すばらしいことだと思います。（福崎東中）
- 普通では体験できないことを、トライやる・ウィークのおかげで貴重な体験をさせていただき、本人もひとまわり大きく成長したように思います。また、人様の親切、思いやりを感じ、失敗を乗り越えることも学んだようです。すてきな学習をありがとうございました。（福崎東中）

【事業所の感想】

- よく動いてくれてとても助かりました。仕事の良いところも悪いところも感じ取ってもらえたのではないかと思います。仕事を中学生にわかりやすく説明することは難しいことだと思いました。
- 初めての日は緊張したようすでしたが、5日目にはとてもいい表情が出てきた2人でした。人前では、立て膝やあぐらをかかず、正座をするというようなこともトライやる前に伝えていただいてもよいかと思います。
- 初めのうちは、恥ずかしそうにしている姿も見られましたが、日を重ねていくにつれて、自分から積極的に関わる姿が見られ始め、子どもたちと遊びを楽しんでいたように思いました。日誌も子どもたちとの関わりの中で学んだことや気づいたことなど…毎日ていねいに書けていたように思いました。
- もう少し積極的に行動してほしいかったです。活動日誌の書き込み、提出、保護者の感想なし、あいさつなし、少し怠慢かと思いました。
- 今回来てくださっているみなさんはとても生き生きとした笑顔で子どもと関わっておられるのが印象的でした。言われたことだけでなく、自分からいろいろなこ

とに気づいて取り組んでおられるのでとても助かりました。普段の授業ではなかなかできない経験をする事ができた1週間だったのではないかなと思います。今回の経験をこれから活かしていってくださいね。

- 初めての環境の中で、一生懸命取り組んでくださいました。自己を見つめて書いた自己紹介カード、事前の打ち合わせ、目標を持つての1週間。生徒さんは素直で意欲的でした。
- 朝早くから来てくれて、作業などよく手伝ってくれました。しんどかったと思いますが、嫌な顔せず、楽しそうにやってくれました。仕事には楽しい（やりがいのある）ことと嫌なこと両面あると思いますが、前向きなとらえ方をしてくれているといいなと思います。
- 利用者の方がトライやる生をあたたく見守ってくださっているのを強く感じました。事業所、学校、家庭がより連携を密にすることで、よい成果が得られると思います。
- トライやる・ウィークでの体験活動を通じて、働くことへの喜びや苦勞、そして社会のルールの厳しさに触れて将来の自分の「生きる力」につながればと思います。



今年も、山桃忌の季節がやってきました。今年のシンポジウムのテーマは「地域に根ざした播磨国風土記の魅力」です。これにちなんで、今回は、井上通泰が著した『播磨国風土記新考』とその協力者について、お話ししたいと思います。

井上通泰が「播磨国風土記」の研究に取り組み始めたのは、大正14年のことです。実は、そのきっかけを作ったのは、弟の柳田國男でした。

ある日のこと、國男が通泰のもとを訪れて、「風土記の研究は文学・歴史学・地理学などの知識が必要だからとても難しいけれど、あなたは幸いに文学と歴史学に造詣が深いし、播磨の生まれで地理の研究にも便宜があるから、是非やってみませんか。」と通泰は、早速研究に取りか

福岡の身近にある歴史を掘り起こそう

『播磨国風土記新考』の著述と、播磨の人々

神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター 研究員

井上 舞

かります。しかし、当時は風土記の研究がそれほど盛んでなく、参考書はおろか、研究の基本となる「播磨国風土記」の本文さえ、なかなか手に入らないような有様でした。

また、地理の研究は、通泰がそれまで取り組んだことのない分野でした。しかも、播磨の生まれといっても、通泰が播磨に住んでいたのは、幼少の頃と、眼科医となつて姫路の病院に赴任していた数年間だけで、決して播磨の地理に詳しいわけではなかったのです。

こうした問題を解決するために、通泰はそれまで自分が築いてきた人脈を頼ることにしました。まず、自らが主催していた「南天荘同人会」の会報上で、風土記の研究を行っていること、そのための資料が不足していることを告知したのでした。これを受けて、通泰を慕う門人たちは、こぞって播磨関係の書籍を寄贈し

ました。また、なかなか手に入らなかった「播磨国風土記」の注釈書や現存最古の写本（三条西家本）の写真版も門人たちから寄贈を受けています。

さらに、播磨の地理を研究するために、播磨出身者の力を借りることにしました。当時、東京には「播州会」という、在京の播磨出身者の連絡会がありました。通泰はこの会の設立に携わっており、その後も評議員を務めていました。その人脈を利用して、在京の播磨出身者を自邸に招き、地理や地名に関する聞き取り調査を行ったのです。この取り組みの結果は上々で、大いに参考になった、と通泰は書き残しています。さらに、この聞き取り調査がきっかけで、東京では手に入りにくい播磨の地誌類も入手することができました。

こうして地理の知識を得た通泰は、その後も地道に研究

を重ねました。そして昭和5年。実に6年の歳月をかけて、『播磨国風土記新考』が完成したのでした。同書に示された見解の中には、現在の研究でも参考にされる部分が少なくありません。こうした成果の陰には、通泰自身の努力もさることながら、播磨人をはじめとする多くの人々の協力があったのです。

『播磨国風土記新考』を書きあげた通泰は、その後も他の風土記や上代の地理に関する著作を次々と発表していきましました。しかし、昭和16年の夏、腸チフスにかかり、半月ほどの闘病の後、8月15日にこの世を去ります。時に76歳。病に倒れる直前まで、学問に邁進し続けた生涯でした。

最後に通泰の歌を一首、ご紹介しましょう。暑い夏。来客がないことを幸いに、学問に没頭する通泰の姿が浮かんできませんか？

暑ければ

人はとひこじ

けふもまた

こころゆくまで

書をかきてむ

夏休み企画

紙芝居

「柳田國男と鈴の森神社」

紙芝居でわかりやすく柳田國男の物語をご紹介します。

日時 8月17日(土) 13:30～14:30

場所 柳田國男生家

連絡先 柳田國男・松岡家記念館



『播磨国風土記新考』



『播磨国風土記新考』の直筆原稿